

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791300155		
法人名	株式会社 コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホームももの里(1階)		
所在地	福島県伊達市沓形18番地2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	令和7年6月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「よろこばれて、よろこぶ」施設理念を常に意識し利用者様と一緒に元気に笑って喜んでアットホームな生活を送れるように努めています。
 コロナ後は外出は減りましたがそれでも生活空間の中で季節を感じられるように季節のものを食べたり、季節の飾りを作ったり、しながら過ごしています。冬の寒い時は柚子をお風呂に入れて香りをたのしみながらゆっくり浸かって頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義を理解し、理念に基づいて利用者と一緒に笑って喜んで生活が送れるよう取り組んでいる。
 家族や職員の思いや提案を大切に、地域や家族の方の協力を得ながら、利用者が安心して暮らせるよう日頃から地域との連携を重視している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を理解し常に意識しながら業務に努めています。	利用者・家族の方・地域の方に笑顔で元気で接することで喜んでもらえるよう支援している。お礼の言葉ををもらい利用者が気軽に話をしてくれて、理念が活かされてると感じている。職員は目標を立て利用者の目線に立った支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	小規模多機能事業所と連携を取り合い認知症カフェや地域のお祭りなど交流を図っている。	町内会に加入し、回覧版も回してもらい、地域の方のことを知り交流している。おやつレクリエーションでクレープ屋さんが訪問してくれたり、近くの高校生がボランティアに来てくれている。地域のお祭りに参加したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの際来場された方から相談を受けたり施設案内をし包括支援センターの方へつないでいる。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	認知症についての質問や対応の様子等現状について提案を頂いている。	協力医療機関からさまざまなアドバイスを受け、利用者・家族が安心して生活できる取り組みがされている。事業所が抱えている問題について、参加者からさまざまな提案を貰い、ケアの質の向上に役立てることができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内会に加盟参加町内の清掃活動などに参加しているほか地域包括支援センターの方々に運営推進会議に参加して頂き現状を報告し、協力関係の構築に努めている。	利用料金滞納の対策方向性、マイナンバーカードについて相談している。介護保険制度の事柄やコロナ関係について情報をもらっている。地域で暮らしている高齢者の状況などの情報などをもらいたいと思っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は会議の際「身体拘束、虐待」について話し合い理解のもと業務を行っています。	身体拘束排除を掲げ、全組織一体となり取り組んでいる。身体拘束ゼロを目指し、実例を挙げ話し合っている。言葉の拘束について、委員会や会議の中で話し合い、職員間で周知し、職員同士気付いた時は注意しあっている。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のモニタリングや会議の中で虐待の防止について話し合い職員間で注意して業務を行っている。	学習テキストを使用し、月一回のモニタリングなどで虐待防止について話し合い、ケアの確認を行っている。不適切なケアについても確認し、話し合いを行っている。日頃から職員に必要時に応じて声かけし、面接などを行ないストレスが溜まらないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について会議の中で勉強しているが中々難しく理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族様に契約書、重要事項説明書について説明を行い不安や疑問にしっかり答え安心して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時には気軽に管理者や職員と意見、要望が言えるような関係作りに努めている。	家族から町内会に加入して欲しいとの要望があり、加入し大変喜ばれている。市の介護相談員が家族の面会時に訪れてくれ、家族は意見や想いを話している。出された事柄については、寄り添えるように日々の運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	職員の意見や要望を聞き全体会議のなかで提案をまとめ報告している。必要に応じて個人面談を行っている。	人員確保について要望が出されているが、なかなか担い手がいないため実現には至っていない。資格支援制度があり、種類にもよるが費用の補助制度があり、外部の研修会の要望があった場合は本社で検討し参加できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度目標を決め自己評価を行っている。向上心を持って働けるような環境作りを行っている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成のため基礎研修など取り入れ全職員が研修に参加しレベルアップを図っている。	管理者・運営者は、職員の質の確保を向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、オンライン研修や会社全体の合同研修などの行い、職員の資質の向上を目指している。その結果、若い職員の意識の向上が図れ、考え方が利用者目線に近づいている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他同業者との交流を図ったり他事業所の職員と意見交換をしサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話や行動を注意深く観察し不安なく安心して生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居室担当をつくりご家族様と連絡を取り合い信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族様との話し合いにおいて今何が必要としているのか確認し情報を共有しながら必要な支援を見極められるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に様の出来る事やりたい事を理解して一緒に楽しんで頂いている。一緒に食器拭きや洗濯たみを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いを理解し関係性をに於て業務を行っています。面会も自由に出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご家族、お友達の訪問を受け入れの関係が出来ている。	利用者の希望で、春先の花見ドライブ秋の紅葉ドライブなどに出かけている。友人や兄弟の方、携帯電話を持参している方には電話をかけて話をして、馴染みの関係を継続している。家族の方から面会拒否の話がなければ面会を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士でテーブル席をつくり楽しく会話をしたり良い関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもいつでも相談頂ける様話しをし相談情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	日常のかかわりで一人一人の方々が発せられる言葉や表情、行動で見極めています。	一対一の対応の時、または居室で思いを聞くことが多くできている。把握した意向や思いを記録に残し、モニタリングなどをしてケアに活かしている。本人の思いを本人の視点に立ち、職員間で情報交換しながら取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を本人様、家族様に聞き取りを行い日々の生活の中で気づいたことは職員間で情報を共有しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議記録から一人一人の体調の状態や生活行動の変化を読み取り把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで出た意見や課題を職員間で話し合い情報を共有して介護計画を作成している。	月一回モニタリングを実施し、往診などをまとめて利用者について話し合い、場合によっては医療機関に意見を聞いて見直しを行っている。利用者の状態変化に合わせてその都度見直しをし、その人に合った計画作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化の様子を記録に記入しモニタリングや職員間で共有しながら見直しが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の希望にて訪問診療、訪問マッサージ、訪問歯科を活用し柔軟に対応できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問マッサージなど利用して安心して楽しみを持って生活ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関と連携して適切な医療を受けられるように情報提供し受診につなげている。	主治医や訪問看護師と、定期の往診や急変時でもすぐに対応してもらい、協力医療関係と連携している。受診は家族対応にしているが、問題があればケアマネなどが対応している。受診結果は、家族が聞いたり、問題点があれば直接病院に連絡・確認し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録から身体の状態、食事量、水分量、排泄を把握して情報を伝え適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネを中心として、入院時には、必要な情報を提供し医療連携を図りながら、情報交換、相談が出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側がどこまで対応が可能か家族様に説明し重度化した場合は終末期に向けて話し合いを行い理解を頂いている。	事業所の看取りに関する指針を元に看取り介護を行っている。重度化した場合、主治医の指示により訪問看護師と連携をとり対応している。看護医療の依存度が必要な場合を除き、できる限り引き続き過ごしていただけるよう支援し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しマニュアルに添った対応が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定での防火訓練の他、風水害の訓練を行っている。	消防署立会いのもと年2回訓練を行っている。同じ職員にならないようとのアドバイスを受け、シフト作成時確認している。利用者のひとりひとりの状況を把握し、避難対策を検討している。運営推進委員会の方や区長の協力を得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライドを損なわないように対応している。 利用者様の性格などを理解し排泄、入浴時の言葉かけに注意し対応している。	事業所は職員に会議モニタリングなどで、毎回尊重やプライバシーに関して伝えている。利用者の目線に立った言葉かけやコミュニケーションを日頃から心がけている。援助が必要と思われる時でも本人の自己決定を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情をよく理解し観察し自己表現できるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人がご自身のペースで行動されている。個々の思いに添って自由に生活できるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類が汚れていないか、破れていないか、髭が伸びていないか、その都度確認を市、清潔保持のため洗濯対応している。出張理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	食事後利用者様同士協力しながら食器拭き、お盆拭きをお願いしている。おやつレクを行い一緒に作って楽しく過ごしている。	職員は昼食のみ、栄養バランスやカロリーを考え朝夕は偏らないようにメニューを決め、外部業者の食材を組み合わせ提供している。職員は利用者と会話をしながら食事をし、介助の方以外は自分のペースで食事できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックしながら水分量が少ない方には好みの飲み物を提供し、工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けし、口腔ケアを行っている歯磨きの介助ハブラシの洗浄、入れ歯の洗浄(市販の洗浄剤を使用)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、排泄パターンを把握し、排尿量に応じた声掛け誘導が出来る。リハビリパンツ使用にてトイレでの排泄の支援が出来る。	本人の以降に基づいて、排泄ができるよう目標を立て支援している。入院時におむつを使用されていた方がリハビリパンツに変更できるなど、自立に向けて取り組んでいる。失敗した時は、失望感を与えないよう片付けや交換をし、その都度考え対応するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には起床時、牛乳を提供し飲み物にオリゴ糖を使用している。自然排便が出る様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて柔軟に対応し拒否がある時には本人様の希望に合わせている。入浴剤や楽しい音楽をかけて気持ちよく入って頂いている。	入浴を嫌がる人には、言葉かけを変えたり原因を考え対応するようにしている。入浴ができなかった方には、本人の承諾を得て正式を行ったり下着交換をしている。衣類の着脱は本人ができる場所をお願いし羞恥心に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の湿度設定、寝具を整えて気持ち良くゆっくり休んで頂けるように支援している。定期的にはリネン交換している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を理解して安全に飲み忘れのないように注意して行っている。異常時には医師薬剤師と連携を図り対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で出来る事、洗濯ものたたみ、食器拭き、お盆拭きなど手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診対応での外出はあるがコロナ後思いうような外出支援は出来ない。	近くの公園や散歩に職員と一緒に出かけている。行事で出かけるときは、ルートの下見、荷物の準備や利用者の健康状態を確認している。計画を立てて花見・紅葉狩りに出かけ季節を楽しむようにしている。本人の希望があれば職員と一緒に買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は事務所が管理している。本人様が食べたい物使うものは居室担当者が買い物して提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持ちいつでも自分から電話することが出来ている。携帯電話がなくても、希望時には事務所から電話が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナの換気に気を付けている。清掃に力を入れて清潔に心掛けている。また季節を感じて頂けるように一緒に季節の飾りつけを行っている。	利用者は主に食事やレクリエーションなどは共有空間で過ごし、居室でテレビを見たりして過ごしている方もいる。手すりや案内板を設置し、目的までの動線として役立たせ、歩行や移動を安全にできるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の性格や心身の状態によってテーブルを分けて気の合った利用者様と楽しく過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	利用者の好きな物、ぬいぐるみ、写真、テレビなどを持ち込み安心して過ごせるような環境作りをしている。テレビも居室でゆっくり見られている。	家族の立ち会いのもと、利用者が過ごしやすいようベッドや家具などの配置を行っている。花の絵で部屋をわけ名前を張ってわかるようにしている。清掃は主に職員、細かい部分は各居室担当が行い、衣替えも利用者とお話をしながら対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすいように張り紙をしたりトイレの入り口に目印をつけたり工夫している。転倒防止に滑り止めなど使用している。		